

第3回 Zoom 例会 (2020.9.19)

◇教科を横断するという視点が大切なのはわかっているつもりでしたが、こうやって真面目に考える機会がなかったので、とても新鮮に感じました。まず思ったのは、横断的な視点を教員同士でも深く共有しないといけないということです。校長から、ベテラン・若い教員と様々な立場で教育観があると思いますので。

また共有という面で、こんな力をつけたいというコンピテンシーつながりという考え方が重要になってくるのは理解できたのですが、子供自身ともその思いを共有するということが必要なかなとずっと自問していました。教科横断的に学習を展開するためには、子供の追究していきたいという強烈な課題意識がないと成り立たないように思うからです。教員のこんな力をつけたいという思いと、子供が学びたいという思いに差があってはいけないと思うのですが、そういったことで先生方のご意見をお聞きしたいなと思いました。自分なりに、自分の学校でできることを考えていきたいと思いました。

ありがとうございました。

◇昨日もありがとうございました。あらためて、勉強になりました。

私は、知的障害や自閉症のある児童をイメージしながら、教科等横断的な視点を考えていました。知的障害のある児童は、物事を断片的に考えるといった学習上の特性があります。自閉症のある児童は、般化することが難しいといった特性があります。両者共に、活用・応用・汎用・般化、そして、転移、こういった力が苦手です。買い物学習などを実施すると、教室で学んだことがお店で使えないことが多くあります。関わる人や場面が変わると、それは別物になってしまうからです。学んだことを活用させるためには、より現実的な場面を設定し繰り返すことが必要です。ある教科で学んだことは、他の单元だけでなく他の教科でも活用していくことが大切です。まさしく、教科等横断的な視点が必要なのではないのでしょうか。

資質・能力を高めるためには、このような教科等横断的な視点が必要です。これらのことは、全ての児童に共通したことでもあります。まさしくUDです。それを意図的に配置して仕組んでいくことがカリキュラム・マネジメントになります。

次回も楽しみにしております。ありがとうございました。

◇本日はありがとうございました。正直普段は一回一回の授業に精一杯で横断的に考えることはできていません。でも、今回の研修を通して、各教科を見渡して繋がりを見つけることくらいはできるのかなと思いました。また、大元にある教育目標をもとに、目指す子ども像を考えた授業、行事づくりをしないといけないのだと改めてわかりました。難しく

て全く発言することができませんでした。とても勉強になりました。ありがとうございました！！

◇お世話になりました。教科横断的な視点を竹野先生がおっしゃったように、使えると知識として身につけたことを、学びに向かう力、思考判断表現力に汎用できますね！難しいことについて様々な面から皆様のご意見をくださるので、今までそれほど考えたことがないことを一生懸命考えました。ありがとうございます。

来年度の学校教育目標について、中学校区でも汎用でき、3つの資質能力がきちんとわかる「めざす子ども像」を今から考えたいと思います。途中のアンケートがよかったですね。芝田先生が途中でこれはどう思われますか？って仰った時に、このアンケートを差し込むと、もっと面白くなったかもしれませんね。どんどんバージョンアップされて、流石ですね。

◇教科等横断的な視点について、皆さんとじっくり学ぶことができました。総合的な学習の時間の研究校などでない限り、必要感をもちづらい観点ですが、「資質・能力ベース」のカリキュラムを考える上で大切なことであることを改めて認識しました。教科等を資質・能力でつなぐことで、より子供の学びが深くなり、コロナ禍の授業時間確保の観点からより効率的になるという良さがあると実感しました。

例えば、伝統文化の学びを視点に、6年社会の平安「国風文化」と国語の「万葉仮名」、枕草子などの古典をつなぐ、社会「室町文化」と図工「水墨画」の造形や鑑賞をつなぐなどが考えられると思いました。他にも、カリキュラムの可能性を考えたいです。

次回のカリキュラム・マネジメントの考え方や実践につながると思いました。

◇今回、教科等横断的な視点について、話題提供をさせていただきましたが、考えれば考えるほど、また文献を読めば読むほど、自分自身の考えが明確にならなくなりました。腑に落ちないまま話をしましたが、みなさんのお気づきやご意見から、今後、我々が教育活動を進めていく時の留意点が見えてきました。

教科等横断的な視点には、まず学校としての明確な覚悟が必要で、学校の教育目標や目指す子ども像にどのような資質・能力を織り込むかを今後進めていくことが必要と思いました。前回の育成を目指す資質・能力の育成、今回の教科等横断的な視点、そして次回のカリキュラム・マネジメントは、コロナ禍であろうと、決してあと回しにすることではないことを確認させてもらいました。

今回も、新採用、ミドルリーダー、管理職の先生、そして教育行政の先生方の貴重な意見をたくさんいただき、本当に感謝です。ありがとうございました。